

感動した！

先日、ある方と久しぶりにお会いしてきたのですが、つい3週間前には、精神症状をうかがわせる言動がいくつもあったのですが、全く別人のようにお元気になられていました。何があったのか！聞くと、お腹が痛いという事で嫌々通院したらある病気の初期症状と分かり、すぐに入院して手術となりました。詳しくは書けませんが、ご本人が言うには手術後から信仰心がよみがえってきた、前向きに↓(TRHのホームページ：<http://www.geocities.jp/recoveta/>)

考えるようになったとのことでした。私は思わず、「手術で悪いものを捨ててきたみたいですね。」と話しました。そして、一歩も外に出ることができなかったのに、最近買い物に行ってきたとの話を聞いて、思わず涙してしまいました。ユング的に言えば、3時間余りの手術の間に、古いAさんは何処に行き、新しいAさんが生まれてきたと言えるかもしれません。このような通過儀礼は時として起こることがあります。何よりも暗かったAさんの表情が明るくなったことに、真実が隠されていると思います。そして、誰かに頼る事もあるでしょうが、その人の個人的体験を基に変化していくことがリハビリと言えるでしょう。

電話：070-5680-0916

メルアド：hillman@tea.ocn.ne.jp

ファックス：050-3737-7151

》NewsNews《

去る3月20日(金)自立支援協議会の精神保健福祉部会にて、昨年11月に実施した研修「淡路障害者生活支援センターのピア活動」について発表させていただきました。



地域自立支援協議会とは？

自立支援協議会について改めて考えてみました。障害者総合支援法の中に規定がありますが、強制的な表現ではありません。つまりなくてもいいわけです。強制的でないものには予算はあまり付かず、もちろんメンバーに報酬はありません。中核となるのは相談支援事業者となっており、そのため委託している自治体は連体的責任を負うわけです。

地域によって形骸化している協議会もあるようですが、香川県はどうなのでしょう？私が参加している高松圏域は活発な方ではないのでしょうか？ま

(←左記の続き)

た、下部組織である精神保健福祉部会も活発に活動をしているのではないかと思います。活動の内容の如何については、その地域の相談支援事業の在り方に連動しているのだと思います。もっと言えば、相談支援専門員と呼ばれる一人一人の業務内容や姿勢にも関わってくるのだと思います。私自身は、相談支援専門員はソーシャルワーカーの一部と考えています。相談支援事業という枠組みだけで相談を受けることは難しいです。虐待に近いようなケース、サービスにつながらないケース等、個人の問題を通して、社会資源の不足や、連携の重要性を日々感じながら業務をしています。ワーカー本来の姿として、困難や悩みと対峙していかなければならないのが、その専門性だと考えます。(次号に続く)

TRH通信2015.3.vol.7

発行責任者 NPO高松Recovery & Hope : 齋藤 工 発行日2015年3月31日

虐待の連鎖

時折聞く虐待のニュース。流れてくるアナウンスに耳をふさぎたくなることはしばしば。私は子供がいるとチャンネルを変えることもある。以前読んだ棚瀬一代氏の著作の中で虐待のケースの17%が、親自身が被虐待児であったという連鎖のケースという研究がある。棚瀬氏はこの数字を基に、虐待は連鎖しないという結論を導いているが、実際はもっと高い数字のような気がする。気を付けなければならないのは、虐待と精神疾患に関連性があること、そして家族という単位の中で子どもの虐待が見過ごされやすいこと。そして障害児であればなおさら子どもや親が孤立しやすいことである。(次号に続く)

＜来月の予定＞

・4月11日(土)

14時～15時

理事会

15時～17時

家族学習会の

企画会議

・4月19日(日)

11時～12時

27年度総会

場所はいずれも
栗林コミセンです。

27年度総会

来る4月19日(日)11時から、栗林コミュニティセンターにて、NPO法人高松Recovery & Hopeの総会を開きます。正会員の方はもちろん、この機会に入会して下さる方も是非おいでください。来年度は、予定していますように、8月の講演会の成功、フリートーキングの会と家族学習会を定着させることが目標です。現在、議案と活動計画書、決算書、予算書などを作っています。会計上はもちろん赤字ですが、人もお金も活動しているうちに集まってくると思っております。何よりも、ピアの方、その家族の方のためのNPOですので、ご協力とご参加をお願いいたします。

香川に必要な精神保健分野の活動は限りなくあります。どうか皆さんの力を貸して下さい。